

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 台風第3号については最新の台風予報を参照。
- 7日から8日は、低気圧がサハリン付近からオホーツク海へ進む。高気圧が西日本付近へ張り出す。
- 9日から11日は、高気圧が日本海へ張り出す。熱帯じょう乱が東シナ海を北上する可能性がある。

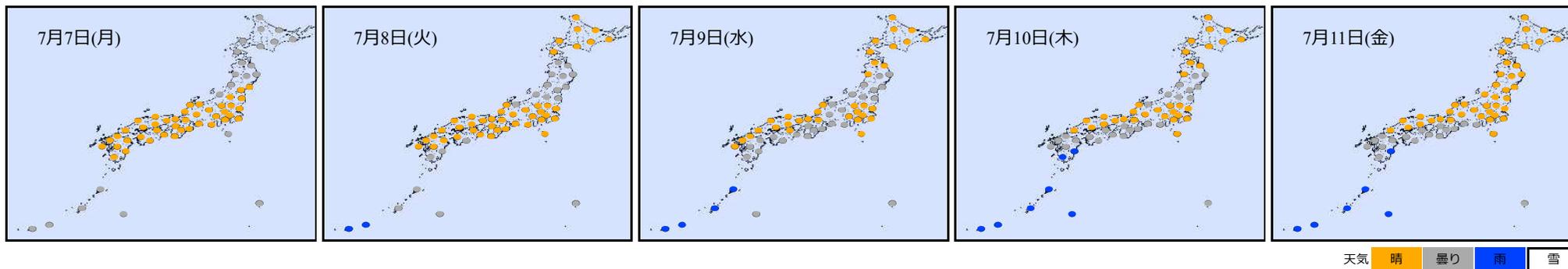
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 全国的に気温がかなり高くなり、最高気温が35度以上となる所がある見込み。熱中症など健康管理に注意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

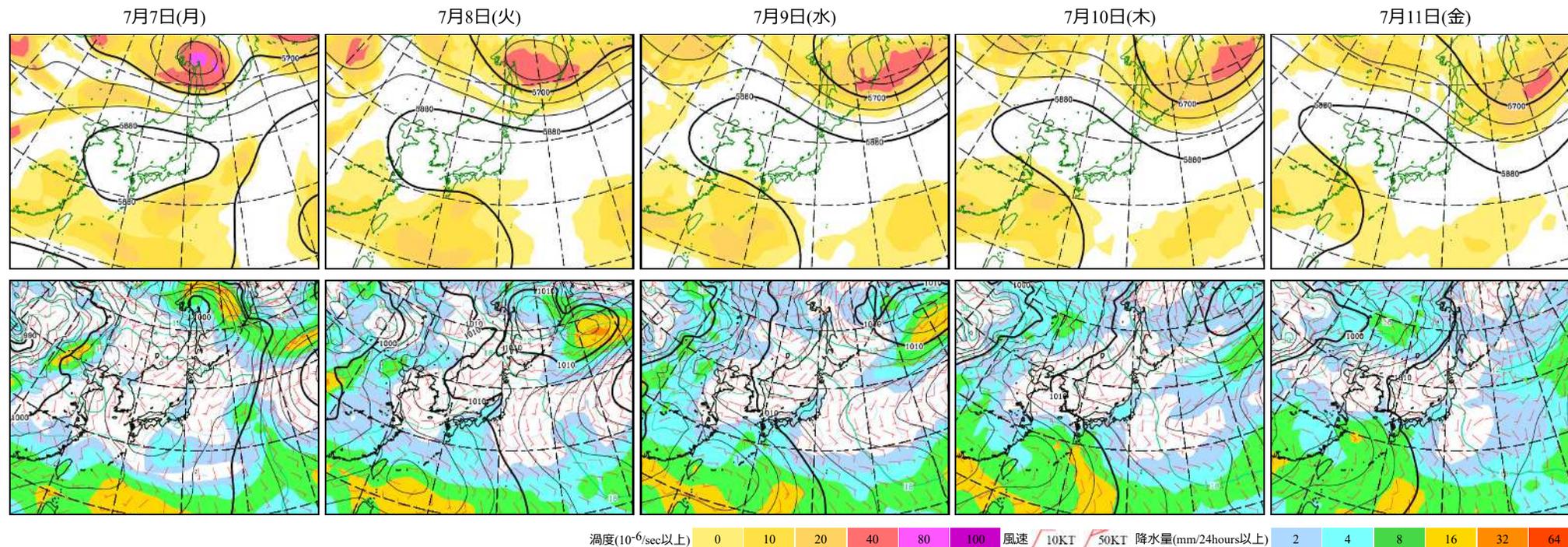
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

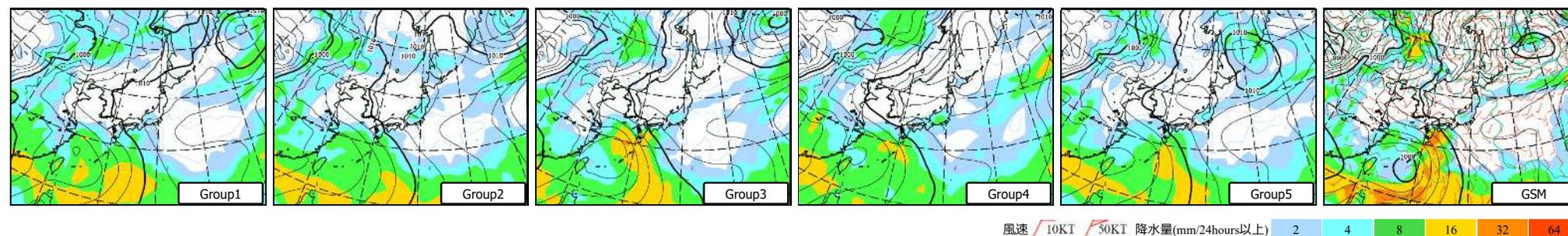


- 北日本は、晴れや曇りの日が多い。
- 東日本と西日本日本海側は、晴れる日が多い。
- 西日本太平洋側は、7日と8日は晴れる所が多いが、9日以降は雲が広がりやすく、雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆7月10日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、8日以降は日本海から北日本付近の高気圧が強まった。東シナ海の熱帯じょう乱は、東シナ海を北西へ進む予想は昨日資料と同様だが、中心はやや不明瞭となり、メンバー間のばらつきが大きくなった。
- 各モデルとも、サブハイの中心は西日本付近から日本海または朝鮮半島付近へ北上して、その南は熱帯じょう乱を含む低圧部となり、9日以降は西日本太平洋側を中心に湿った空気が流れ込みやすい予想はおおむね揃っている。
- スプレッドは、期間の終わりはやや大きく、千島の東のトラフや東シナ海の熱帯じょう乱に関するばらつきが大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。FEFE19では、10日頃は沖縄地方に熱帯じょう乱が予想されているが、他のモデルとの差が大きく不確実性が大きい。沖縄・奄美と西日本は、予報が大きく変わる可能性があることに留意。